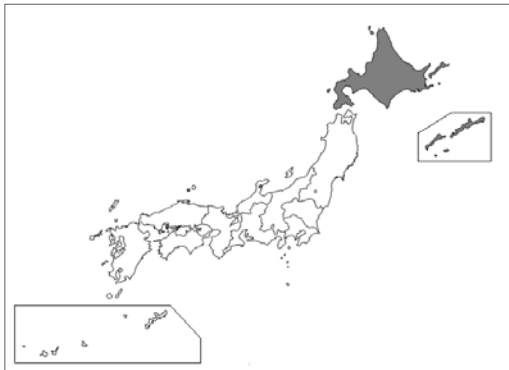


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 28 年 8 月)	今回 (平成 28 年 11 月)
景況判断	持ち直し	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調
鉱工業生産	下げ止まりつつある	おおむね横ばい
個人消費	持ち直し	緩やかに増加

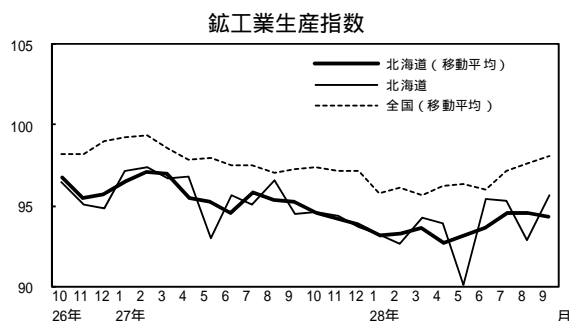
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業の水揚量は前年を下回っている。

7～9月期には、生乳生産は総量では987,528tと前年比0.9%増となり、牛乳等向けが増加した。水産物の水揚量(主要8港)は、するめいか等が減少したため、前年比24.8%減となった。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、食料品は、ビール等が減少した。パルプ・紙は、前期の応援生産による増加からの反動減等により減少した。電気機械は、工場の集約等により増加した。鉄鋼は、定期修理等により特殊鋼棒鋼等が減少した。輸送機械は、生産体制の見直し等により自動車駆動伝導装置等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
食料品	24.2	2.9	0.2	3.1	2.6	2.3
パルプ・紙	11.9	2.5	4.5	6.3	1.6	1.1
電気機械	11.7	5.9	11.6	9.1	2.6	1.0
鉄鋼	7.5	0.6	6.0	1.7	14.1	13.6
輸送機械	7.0	12.0	3.7	4.5	7.4	2.2
鉱工業	100.0	0.2	1.6	0.1	2.5	2.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7～9月期、9月は速報値。

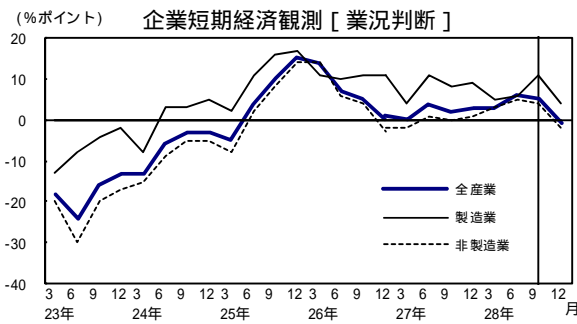
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月速報値。

2. 全国及び北海道の大線は中心3か月移動平均。

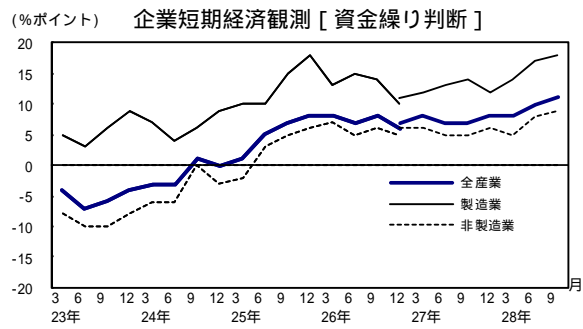
直近月は2か月平均。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

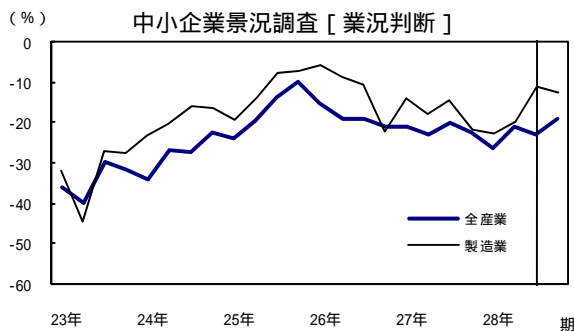
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年12月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

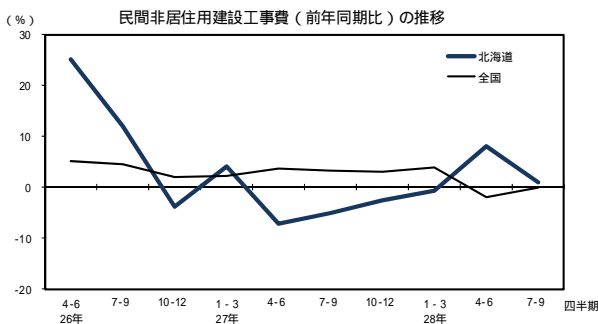


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「公共工事、民間建築工事とも、受注量が順調に確保できている。また、建築工事については、引き合いが継続してみられることから、客先の設備投資意欲もうかがえる(建設業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばいとなっている。



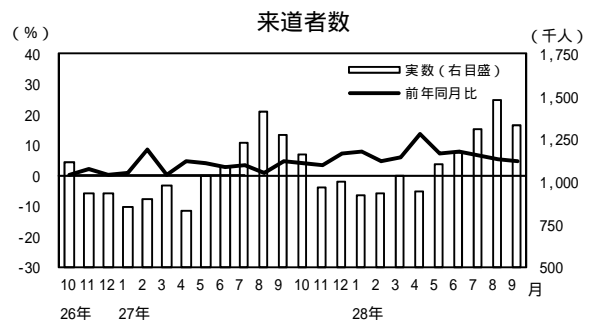
企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度見通
全産業	7.7	15.4(0.6)
製造業	5.9	7.6(2.6)
非製造業	8.4	18.3(2.1)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。
2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は増加している。
来道者数は、新幹線効果等により増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.3%増、8月は同0.3%増、9月は同1.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を上回った。

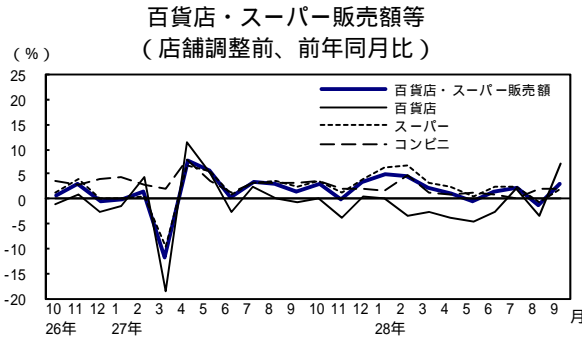
8月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を下回った。9月は、

衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を上回った。

スーパーは、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「前年よりも新車の受注が増えている (乗用車販売店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

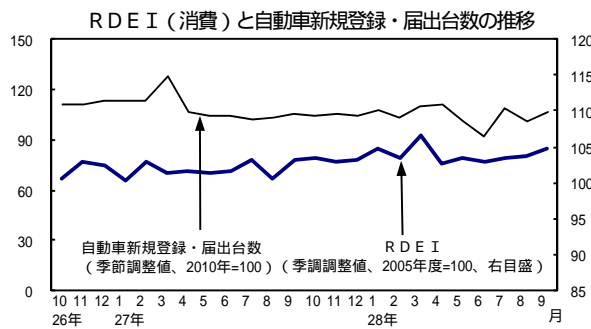


	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.8	0.3	0.3	1.0
百貨店・スーパー(*2)	1.4	2.4	1.2	3.1
百貨店(*2)	1.9	1.9	3.2	7.2
スーパー(*2)	1.2	2.6	0.6	1.9
コンビニ(*2)	1.4	0.0	2.1	2.0
乗用車(*3)	2.5	2.2	9.8	2.4
(季節調整値)(*3)	2.6	0.8	6.9	5.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

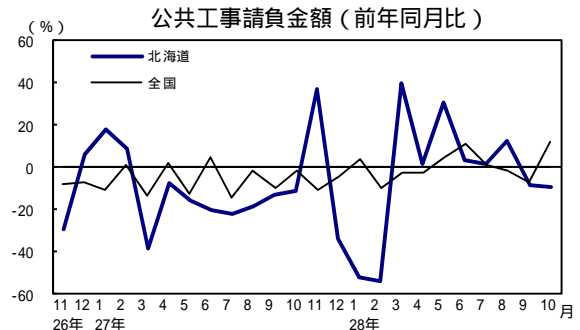
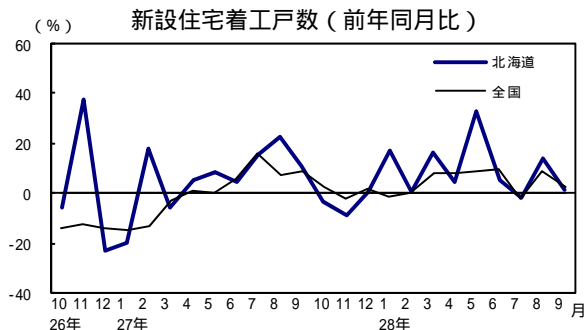
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。

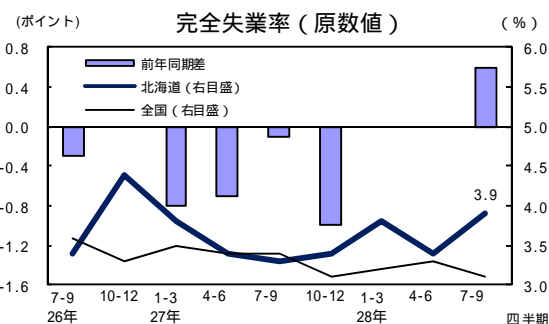
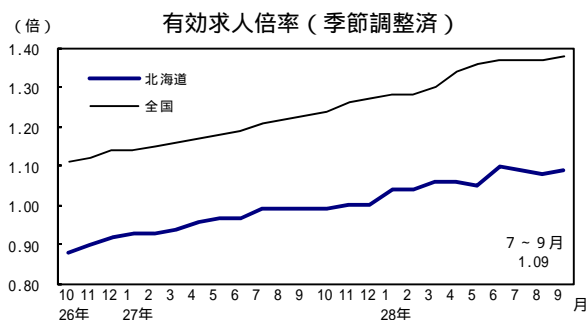


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（10月調査結果）[雇用関連（現状）]

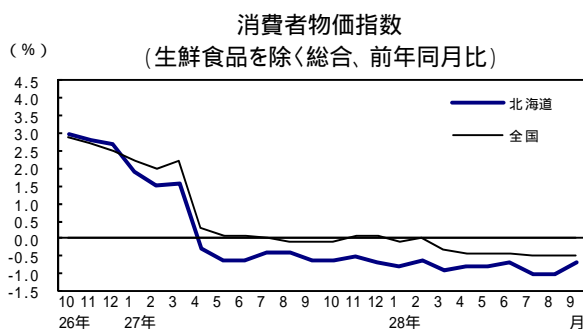
「台風10号による被害の影響で、派遣、医療、加工・製造、小売といった募集広告売上高の上位4業種の売上が前年から10～30%減少しており、全体の売上も前年比92.5%と落ち込んだ。一方、災害復旧に伴い土建関連業種の売上が前年の約2.5倍となり、全体の落ち込みを若干緩和している（新聞社[求人広告]）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	59	68	63	74	22
(前年比)	0.0	17.1	3.3	3.9	0.0
負債総額	156	377	109	76	26
(前年比)	91.9	54.0	20.3	32.3	0.8



景気ウォッチャー調査（10月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・地元球団の日本シリーズ優勝に伴い、流通業のセールを始め、飲食、ホテル業界などに経済効果が生じている（広告代理店）

<先行き>

・生産農家も含めた農業関係事業者については、台風で被災した人のみならず、その周囲の人にも自粛ムードに入ってきており、回復のめどが立たない。そのため、今後数か月は現在の状況が続く（旅行代理店）

景気ウォッチャー調査（季節調整値）

